

## C. 連携をめぐるナース，ケアマネジャーの活躍

在宅WOCナースからみた  
病診連携

熊谷英子

むらた日帰り外科手術・WOCクリニック 統括看護部長，皮膚・排泄ケア認定看護師

## Point

- ▶ 在宅では，患者が複数の疾患を抱えており，複雑な病診連携が求められる
- ▶ 病診連携では，「患者に何が一番大切か」を念頭に置き，各々が各々の役割を果たすことがシームレスな治療・ケアの提供につながる
- ▶ 褥瘡ケアにおいては病院・在宅のWOCナースを活用することが，病診連携の糸口になる
- ▶ 病診連携では，医師の連携だけではなく，多職種による「顔の見える連携」が褥瘡の早期治癒につながる

## はじめに

筆者は，長年勤務した東北大学病院を退職し，2014年4月よりむらた日帰り外科手術・WOCクリニックに勤務し，2年半を経過しました。同クリニックは，日帰り外科手術，在宅，WOC部門，訪問栄養部門の4部門から成り，筆者は，WOC部門を担当しています。WOC部門では，WOC領域に特化したWOC外来と訪問看護をおこなっています。褥瘡では，病院から直接依頼される場合と訪問看護師やケアマネジャーを経由してかかり

つけ医から依頼される場合が多く，在宅の褥瘡ケアでは，シームレスな病診連携が重要不可欠であると感じています。しかしながら在宅の場では，複数の疾患を抱えている患者や，医師の専門性や褥瘡治療への温度差により，病診連携が複雑化し，スムーズな連携ができず，患者に適切な褥瘡治療やケアが提供されていない場面も多くみられます。

本章では，在宅のWOCナースからみた病診連携について述べたいと思います。

## 病診連携の現状と課題

病診連携とは、病院と診療の連携をいいます。現在、病院では、地域医療連携センターなどの設置により入院時から計画的な退院支援が進められており、自宅に退院する場合は、自宅近くの医院・クリニックなどの診療所の医師がかかりつけ医になるケースが多くみられます。また、通常はかかりつけ医に定期的に受診や往診を依頼し、専門的な検査や治療が必要な場合には、病院に入院するケースが多いと思います。しかしながら、褥瘡だけを有する患者であれば、病院を退院する時点で、褥瘡の得意なかかりつけ医を選択し、病院→かかりつけ医→病院という単純な連携を確立できますが、多くの患者は多数の疾患を抱えており、患者に対して、より質の高い医療を提供するためには、複数の病院、複数の診療所との連携が必須となってきます。とくに内科系の疾患を有し、褥瘡のない状態で退院する場合は、「自宅に近い病院で、ときどき往診もしてくれる診療所」「昔から高血圧で薬を出してもらっていたから」などの理由で、患者・家族が「かかりつけ医」を希望し、退院調整をおこなう医療ソーシャルワーカー(MSW)や退院調整看護師と相談のうえ「かかりつけ医」を決定するケースが多いのではないのでしょうか。そのようななかで褥瘡が発生した場合、すぐに褥瘡の専門医師のいる病院や診療所に褥

瘡の治療を依頼するかかりつけ医が存在する一方、「褥瘡は温かくしてマッサージしておけば大丈夫」「黒色壊死組織を有する褥瘡に白色ワセリンを塗布しなさい」と、古い知識のまま治療しているかかりつけ医が存在するのも事実です。このような場合、患者・家族の立場では、「いつもお世話になっているから」という思いから、なかなか他の病院を受診したいと言えず、悩んでいる間に褥瘡が悪化する場合も多くみられます。さらに、いざ褥瘡が悪化し、入院治療が必要な場合には、病院側から「褥瘡だけでは入院できない」と入院を断られることもたびたびみられます。誤嚥性肺炎の併発や原疾患の悪化がないと、入院できないというのです。

このような現状のなかで、患者・家族の最も近い位置にいるケアマネジャーや訪問看護師が多方面に気を遣いながら、患者に適切な褥瘡治療を受けさせるための調整をおこなっているというのが、在宅の病診連携の現実でもあります。

今後、これらの現状を踏まえたうえで、地域包括医療を推進するためには、まず、病院、診療所が各々の役割を認識し、その役割を果たすことが大きな課題といえます。そして、この役割を果たすことによって、「シームレスな褥瘡治療・ケア」が実現すると思えます。

## 病診連携における WOC ナースの活用

WOC ナースの増加に伴い、多くの病院に WOC ナースが勤務するようになりました。WOC ナースが勤務する病院では、WOC ナースが褥瘡回診などにより、入院した褥瘡患者のケアにあたっていることが多く、WOC ナースと連携することも

褥瘡のシームレスなケアにおいては重要な役割を果たしています。筆者自身も、自分が関わっている患者が入院する場合は、必ずその病院の WOC ナースに、診療情報提供者やメールで経過や今後の目標について伝えることにしています。「体位変

換ができないので高機能マットレスの使用を勧めたが、高機能マットレスは痛みがあるので使用したくないと言われ、別のものを勧められないでいる」と情報提供したことに対し、「〇〇マットレスを勧めたら、痛みもなく安心して使ってくれています」という報告があり、退院後も「病院で使っていたのなら大丈夫ですね」と病院のケアをスムーズに継続できることが可能になっています。また、「やっとな陰圧閉鎖療法でポケットが閉鎖したので、再発しないように注意してください」という情報提供に対して、「再発なく経過しています」などの嬉しい報告が返ってきます。まさに、「連携」を実感する瞬間です。

病院の WOC ナースに気軽に連絡するのは勇気がいると思いますが、WOC ナースの役割は、WOC 領域における「実践」「指導」「相談」であるため、遠慮せずに電話やメールで相談してください。病院の WOC ナースと診療所の看護師、診療所の WOC ナースと病院の看護師、病院の看護師と診療所の看護師間でこのような連携がとれると、褥瘡の治療の連携だけではないケアの連携がスムーズにいくようになります。また、ここでは、病診連携に言及していますが、患者・家族、在宅医療者、介護者も遠慮せずに WOC ナースを活用することで、病院の垣根を越えた「顔の見える連携」につながります。